



2023年6月28日

各位

会社名 株式会社免疫生物研究所
(コード番号：4570)
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1
代表者 代表取締役社長 清藤 勉
問合せ先 常務取締役業務執行責任者 中川 正人
兼事業グループ管理本部長
電話番号 0274-22-2889 (代表)
URL <https://www.ibl-japan.co.jp>

上場維持基準の適合に向けた計画

当社は、2023年3月31日（以下、「基準日」という。）時点において、グロース市場における上場維持基準を満たしていないため、下記のとおり上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画

当社の基準日時点におけるグロース市場の上場維持基準への適合状況は下記のとおりとなっており、時価総額については、基準に適合しておらず、2026年3月31日までに適合することを求められております。

当社は、時価総額の基準を充たすための期間を2025年3月期末とし、上場維持基準への適合に向けた各種取組みを進めてまいります。

	流通株式 時価総額	流通株式 比率	時価総額	純資産 の額
当社の状況 (基準日時点)	31億円	82%	37億円	正
上場維持基準	5億円以上	25%以上	40億円以上	正
計画書に記載 の項目	—	—	○	—

※当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準適合に向けた取組みの基本方針について

当社グループは、グロース市場における上場維持基準適合に向け企業価値の向上により「時価総額の向上」を基本方針とし、「株価向上」を目指してまいります。

3. 企業価値向上に向けた課題と取り組みについて

(課題)

当社グループは、前期において営業利益を計上することが出来ましたが、従来から経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しております。そのことにより、株主の皆様や投資家の皆様などに対し、継続企業としての疑義やご不安を与え、当社の株価が低迷し、グロース市場が求める時価総額の基準を満たしていないと認識しております。当社グループは、以下の取り組みを着実に取り組むことにより、企業価値の向上については株価の向上につなげ、時価総額の上場維持基準を満たすことが出来るものと考えております。

(取り組み内容)

当社は、40年以上抗体を開発し抗体作製のノウハウが蓄積され、当社のコア技術として確立されており、国内外の研究用試薬市場において製造・販売を行い、医薬シーズ開発や遺伝子組換えカイコによる医薬品原料の生産開発を行ってまいりました。

しかしながら、研究用試薬の領域は、非常に流動的であり、競争が激しいグローバル社会において、安定した収益を生み出すことが困難な領域となっていることや医薬シーズ開発や遺伝子組換えカイコによる医薬品原料生産開発は、開発期間が長期になり、開発費も増大になることから、長期間にわたり利益を創出することが出来ておりませんでした。

今後、当社グループは、以下の取り組みにより、収益の拡大をはかり2024年3月期の最終損益の黒字化を目指し、財務の安定化を図り、株主の皆様への還元の実現を目指してまいります。

※取り組み内容の詳細につきましては、2023年5月31日公表の「事業計画及び成長可能性に関する説明」（以下、「説明資料」という。）を参照ください。

①市場規模が大きい診断用医薬品市場へ本格参入

・当社は、創業から40年以上、抗体作製のノウハウを蓄積し、高い特異性の抗体を多数所有しており、また、ISO 13485を取得し厳格な品質管理を行っていることから、診断用医薬品の製品化や診断用医薬品メーカーへの抗体原料供給を本格的に進めてまいります。

・当社は、2022年6月に公表しましたとおり、株式会社シスメックスと業務提携契約を締結し、両社の診断薬開発技術の相互利用を進めることで、より独創的で高品質な製品を開発し全世界に向けて提供することを目指しております。具体的には、当社の特長ある抗体ライブラリをシスメックスの HISCL をはじめとする測定プラットフォーム向けに最適化し、診断薬原材料として供給することが可能となり、また当社の強みである抗体開発技術を活かしてグローバル市場の様々な診断ニーズに対応した抗体を開発し、シスメックスへの供給を通じて診断薬市場に向け、事業を拡大してまいります。

(説明資料 P. 11-15)

②海外における研究用試薬市場の開拓

・研究用試薬市場は、浮き沈みの激しい市場ではありますが、国内市場に比べ、世界の市場は数十倍大きい一方、当社製品の世界における認知度は、国内に比べ、かなり低い

状況となっております。当社は、世界市場の開拓により、試薬売上高の最低ラインを向上させ、事業の安定化を図ってまいります。

そのために、当社グループでは、3年ほど前から本格的に **Linked in** を活用し、世界の **CRO** 関連ビジネスユースへ、当社グループの独自技術の動画を配信することにより、世界の研究者の記憶に刷り込み、当社グループ製品およびサービス群の利用機会の拡大を図っております。

(説明資料 P. 23)

③医薬品シーズ関連の開発コストの削減

・遺伝子組換えカイコ開発事業における、医薬品原料生産に向けた新規開発については、長期間にわたり、開発費も増大になることや診断用医薬品開発に資金を集中するため、中止することを決定いたしました。

・当社合弁企業の(株)Ai Bio は、「ダニ媒介性感染症である重症熱性血小板減少症候群」(SFTS)に関する治療用抗体医薬品の開発を行っていましたが、予定していたカニクイザルを使用した非臨床試験を一旦中止し、現時点で取得済みの試験結果を用いて早期の導出に注力してまいります。

(説明資料 P. 16-17、P26)

④不採算事業の価値向上

・(検査サービス)

2024年3月期においては、大手製薬企業等からまとまった案件の引き合いがあることや自社 ELISA キットを使用した受託測定サービスの売上高が順調に増加していることにより、前年を上回る売上高を予想しております。一方、浮き沈みの激しい売上高において、継続して収益を生み出すために、人的、物的資源の効率化により、経費削減を進めてまいります。

・(遺伝子組換えカイコサービス)

遺伝子組換えカイコにより生産された抗体は、非特異反応が低いことや動物愛護の対象とならないこと、また、診断用医薬品レベルの生産においては、コストの低減が図れることなどの優位性を持っていることから、既存製品やあらたに開発した新製品の組換えヒトフィブロネクチンの製造販売は、抗体関連事業において継続してまいります。

当該製品群は、今後も製造方法の改良を行い、生産コストの低減をはかり、遺伝子組み換え製品の価値増大を目指します。

・(化粧品関連事業)

中国市場は、SNS を活用して、中国国内のバイヤーの方々に直接情報発信し、販路拡大の準備をすすめてまいります。また、欧州市場は、欧州現地代理人は、E マーケティング(SNS)や Amazon への出店、さらに国際展示会での展示をおこない、販売網を拡大し売上増加を目指しております。さらに、日本市場は、群馬県の温泉地において、高級旅館とコラボレーションし、SNS を活用した販売活動を行ってまいります。

(P. 19-22、P. 28-34)

(参考) 当社グループの中期経営計画

(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	2025年3月期 計画	2026年3月期 計画
売上高	794	850	940	1,040
営業利益	58	90	140	205
経常利益	△149	90	増益	増益
最終利益	△289	80	増益	増益

※説明資料 P37 を参照

以上